



「おいでまい」通信 令和8年第2号

令和8年8月5日 香川県農業革新支援センター

水管理に注意し、穂肥・出穂期防除を適期に行いましょう！

栽培管理のポイント

- 8月上旬頃から幼穂形成期に入ります。**間断灌水**を行いましょう。
特に、**穂ばらみ期～乳熟期頃は最も水が必要な時期**になります。
- 基肥＋穂肥の施肥体系では、穂肥診断により**適正な穂肥を施用**しましょう。
- 出穂頃に発生しやすい病害虫予防のため、**必須防除を実施**しましょう。

【気象概況】

- ・7月30日発表 四国地方向こう1か月予報（8月1日～31日）では、平年に比べ、**気温は「高い」**、降水量、日照時間は「ほぼ平年並み」となっています。
- ・なお、7月7日～8月3日まで降雨がなかった状況を踏まえ、節水栽培の目安を参考に、適正な水管理を行いましょう。

【生育状況】

- ・農業試験場の作況試験（6月19日移植、7月29日調査）

草丈：短 茎数：多 主稈葉数：並 （過去5か年平均との比較）

草 丈：61.6 cm（▲7.3 cm）

茎 数：852 本／m² [46.1 本／株]（＋13%）

主稈葉数：12.1 枚（＋0.4枚）

【病害虫発生予報(8月4日 病害虫防除所 発表)】

葉いもち：「やや少」（普通期栽培）

穂いもち：「やや少」（普通期栽培）

紋枯病：「並」（普通期栽培）

斑点米カメムシ類：「やや多」

トビイロウンカ：「並」

コブノメイガ：「やや少」（普通期栽培）

お問い合わせ先

香川県農政水産部農業経営課農業革新支援センター

TEL 087(814) 7319

〃 農業生産流通課農産グループ

TEL 087(832) 3418

〃 東讃農業改良普及センター

TEL 0879(42) 0190

〃 小豆農業改良普及センター

TEL 0879(75) 0145

〃 中讃農業改良普及センター

TEL 0877(62) 1022

〃 西讃農業改良普及センター

TEL 0875(62) 3075

栽培管理のポイント(その1)

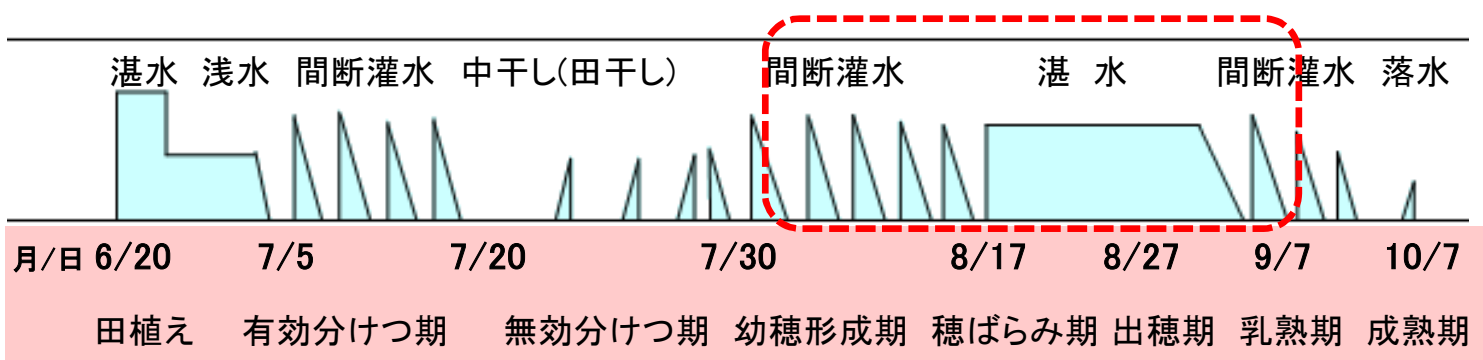
水管理

【水管理のポイント】

8月上旬以降

- ①幼穂形成期 : 間断灌水を行います。
- ②出穂期前後(穂ばらみ期～乳熟期) : 湛水とします。
- ③乳熟期以降 : 間断灌水とします。

※用水が不足する場合は、最低でも「黒湿り」を保ちましょう。



水管理のイメージ

※図形部分が水が入った状態、高さが水深を示します。

参考資料

【節水栽培の目安(「水稻節水栽培基準」より抜粋)】

生育ステージ 田植期	用水の 必要度	おいでまい (6/20)植	土壌水分の限度
幼穂形成期	◎	8月5日	黒湿りまで (飽和状態を保つ)
穂ばらみ期	◎	8月15日	
出穂開花期	◎	8月30日	
登熟前期	○	9月4日	
登熟後期	△	9月24日	黒乾きまで
落水期	—	10月5日	—

注1) 用水の必要度は、「◎:大」、「○:中」、「△:少」、「—:不用」を示します。

注2) 上記の日付は、おおよその目安です。

注3) 土壌水分の限度は、水稻の生育収量に大きな影響を与えないと考えられる最低の土壌水分であり、この状態に達したものは、かん水する必要があります。

詳しくは、県HP
「水稻節水栽培基準」
をご覧ください



栽培管理のポイント(その2)

穂肥診断

充実が良く、食味の良い米を生産するため、基肥＋穂肥の施肥体系では、穂肥診断を行って穂肥量を決めましょう。「おいでまい」は「ヒノヒカリ」より葉色がやや薄いので、過剰施肥とならないよう注意してください。



【穂肥診断のポイント】

速効性肥料とツーショット肥料の場合、穂肥量は下の穂肥診断基準に基づき、**生育状態（草丈と葉色）に応じて穂肥量を加減**してください。

穂肥Ⅰ施用時（出穂前18日）の生育は、**草丈75cm、葉色（葉色板値）4.0**が望ましい姿です。これより草丈が長く、葉色が濃い場合は**もみ数が過多となり充実不足となるため**、穂肥量を減らしましょう。下の茂り方の写真も参考にしてください。

穂肥診断基準（出穂前20日）

草丈	葉色		穂肥Ⅰ 施用量
	葉色板値	SPAD値	
75cm 未満	4.5未満	35未満	基準量
	4.5以上	35以上	基準の半量
	5.0以上	37以上	施用しない
75cm以上 85cm未満	4.0未満	32未満	基準量
	4.0以上	32以上	基準の半量
	4.5以上	35以上	施用しない
85cm以上			施用しない

【診断手順】

- ①出穂前日数を把握する。
・**幼穂長2mmであれば、出穂前20日**
・この時期の幼穂は1日約1mm伸長するので、逆算して出穂前日数を把握する。
例：幼穂長4mmであれば、出穂前18日
- ②草丈を測って出穂前20日の値に補正する。
・この時期の草丈は1日1cm伸びるので、20日前になるよう補正する。
例：出穂前18日の場合、草丈を2cm引く。
- ③補正した草丈と葉色を穂肥診断基準に適用し、穂肥量を決定する。

※穂肥量は天候や地力に応じて加減します。

SPAD値は葉緑素計による測定値。



適正な茂り方(地面が見えている)



茂りすぎ(地面が見えない)

穂肥施用時の稲の姿(上から見た様子)

もともと色が薄いので、肥料をやりすぎないようにね！



栽培管理のポイント(その3)

病虫害防除

穂いもち、紋枯病、カメムシによる斑点米を防ぐため、**出穂期、出穂後に必須防除**を行ってください。また、突発的に病虫害が発生すれば、適切な確認防除を行ってください。

【必須防除の時期】

薬剤の剤型	出穂期頃	出穂後
粒剤	出穂15～20日前	出穂7～10日後
豆つぶ	出穂10日前	
液剤・水溶剤	出穂直前～穂揃期	出穂10～14日後

【確認防除のポイント】

田植え後～出穂期の間に葉いもちや紋枯病の発生が見られたら、確認防除を行ってください。特にいもち病は常発地では注意が必要です。また、コブノメイガの発生に注意し、多発生が予想される場合は、確認防除を行いましょう。収量減や充実不足につながってしまいます。

<必須防除(例)>

出穂前: **ゴウケツモンスター粒剤**または
ダブルカットバリダフロアブル等
(いもち病、紋枯病、害虫対象)
↓
出穂後: **スタークル粒剤・顆粒水溶剤**
(斑点米カメムシ類ほか害虫対象)

<確認防除(例)>

葉いもちが発生した場合
ブラシンフロアブル等
紋枯病が発生した場合
モンガリット粒剤等
コブノメイガの多発生が予想される場合
パダン粒剤4など

具体的な使用薬剤は、地域の栽培しおりを確認してください！



葉いもち

いもち病の発生に注意してね。



紋枯病

穂いもち



ミナミアオカメムシ(幼虫)

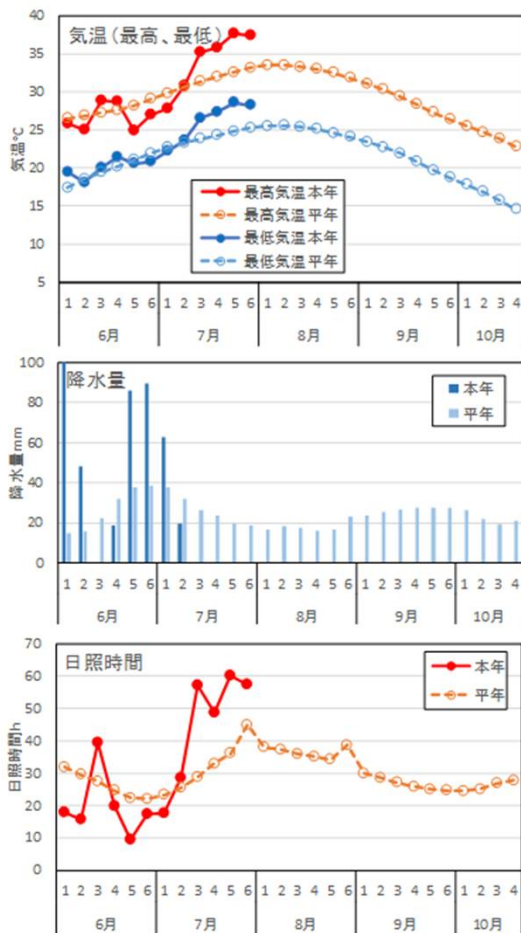


コブノメイガによる食害

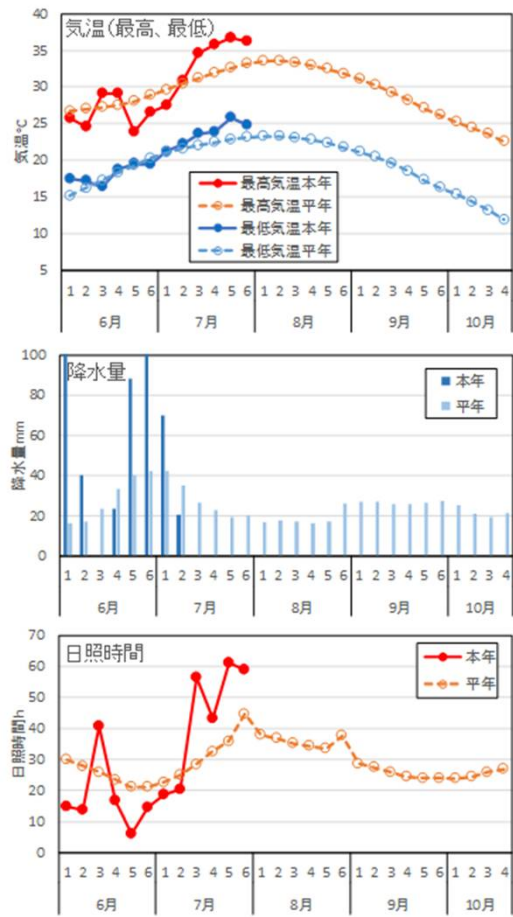


カメムシによる斑点米

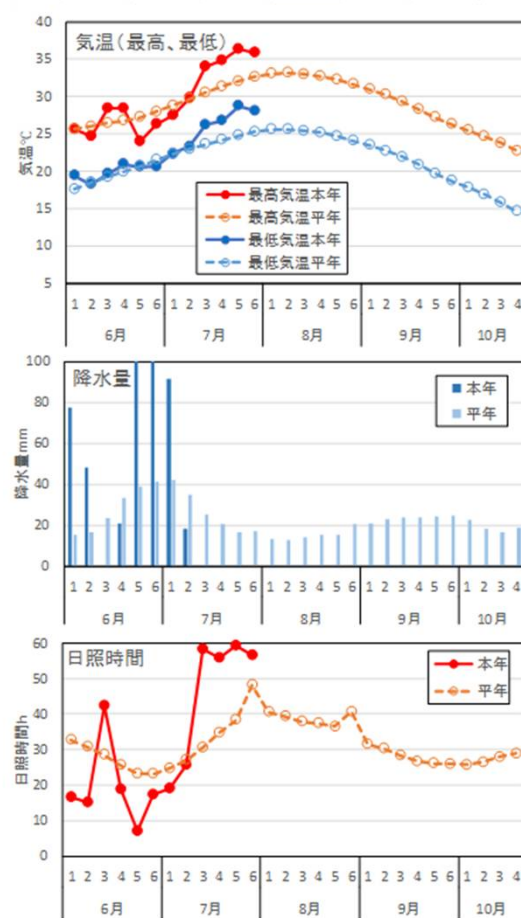
※斑点米は1000粒に2粒あるだけで2等となります。



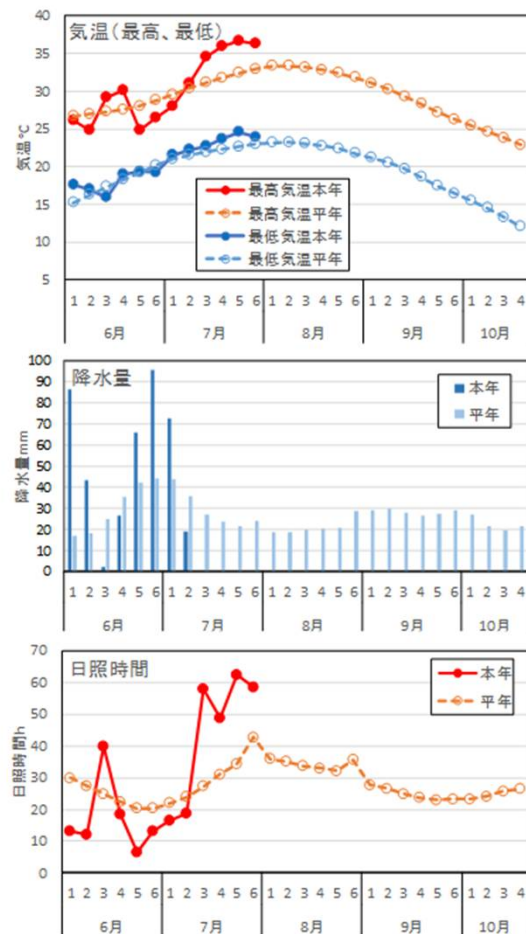
令和8年度 半旬別気象(高松アメダスデータ)



令和8年度 半旬別気象(滝宮アメダスデータ)



令和8年度 半旬別気象(多度津アメダスデータ)



令和8年度 半旬別気象(財田アメダスデータ)